

古文書における助数詞 (一)

三 保 忠 夫

奈良時代・平安時代の古文書をひもとくと、そこには非常に多くの助数詞が用いられていることに気付く。それらの中には、現代においてはもはや用いられなくなったものがあり、また、当時にあつても、古文書以外の他の資料ジャンル（古記録、和文、その他）には容易に見出せえないものもある。いつてみれば、より古い時代の文書、より形式の整った文書ほど、多彩な、かつ、多数の助数詞が用いられているのであるが、これは、かつて、文書の作成に際しては、厳密な数量表現が義務付けられていたからのことである。^(注1)

古代における文書は、また、「真書」、即ち、楷書による漢文体をもつて綴ることになっていたから、それら助数詞は漢語系のもと推測される。しかし、思うに、これらは、果して、何を範とし何を典拠としたものであろうか。古代の中国や日本において、助数詞およびその用法について細かく規定した文献が存在していたのであろうか。

筆者は、そうした規範の書や字書の類を未だ管見にしない。だが、その探索とは別に、まずは、実際に使用された助数詞を、一度、表覧できるようにする形にでも整理してみたいと考えるに至った。古文書には、一体、

どのような助数詞が、どのような用法で用いられているのか、その全体的な様相を簡潔な形で窺いたいと思うのである。

助数詞は、その用法も含めて、時代とともに推移するようである。そのみならず、地域による差違や特徴もありそうである。^(注3) また、時代を同じくする文書でも、用いる助数詞に相違の認められることもある。こうした差違は、一体、何を意味するのであろうか。こうした事柄も、右に併せて考察してみたい。

本稿は、このような古文書における助数詞の考察を主眼とするものである。しかし、調査には時日を要し、また、その報告には紙数を要するので、ここでは次の調査結果を報告するにとどめ、他の調査報告、分析等は後日に譲ることとする。

今回の調査報告

○奈良時代の寺院縁起資財帳

○平安時代の寺院縁起資財帳・実録帳

なお、助数詞の種類については、先学により、次のように区分され整

理されている。^(注4)

(一) 量を測る単位

(1) 人為的に特定の単位名を設定したもの(度量衡・暦日の単位など)

(2) 容器・集団を単位名としたもの(俵・坏・壺・櫃・甕・筥・籠など)

(二) 数を数える単位

(1) 順序・頻度・種類などを単位名としたもの(回・度・巡など)

(2) 性質・形状などを単位名としたもの(口・合・宇・旒・本・枚・柄・翼・腰・隻・面・顆など)

(この内、数えられる事物(対象)との定着度が極めて高い助数詞は(二)である。これを助数詞B群とし、それまでのものを同A群とすれば、このB群は、事物それぞれの性質・形状・用途等に応じて限定的に用いられる本来的な助数詞であり、助数詞研究上、もつとも注目されるグループである。本稿は、以下にこのグループを中心に検討していく。

一 奈良時代の寺院縁起資財帳

調査対象文書

ここにおいて主たる資料とするのは次のものである。いずれも竹内理三編『寧楽遺文』上巻、宗教編上に所収の文書である。

- (イ)、法隆寺伽藍縁起并流記資財帳、天平十九年(七四七)二月十一日、

- (ロ)、大安寺伽藍縁起并流記資財帳、天平十九年(七四七)二月十一日、

- (ハ)、法隆寺縁起并資財帳、天平宝字五年(七六一)十月一日、
- (ニ)、西大寺資財流記帳、宝龜十一年(七八〇)十二月二十五日、

資財帳とは財産目録のことである。元正天皇の靈龜二年以後、毎年、これが作成され、朝集使に付して上申されることになっていった。また、流記資財帳とは、そうした資財帳の内、特に後世まで留めて永例となすもので、従って、その作成には厳密を期したとされる。^(注6)なお、(イ)ならびに(ロ)と(ハ)との間は十四ケ年、(イ)と(ニ)との間は十九ケ年を数え、(ロ)と(ハ)との間、天平勝宝九年(天平宝字元年、七五七)五月二十日には養老律令が施行されている。

これらの資料において、助数詞B群に属するものは左記のごとくである(便宜上、字音を傍記し、これをアイウエオ順に配列する)。

(51)	(46)	(41)	(36)	(31)	(26)	(21)	(16)	(11)	(6)	(1)
頭	挺	株	袋	隻	首	劑	丸	曇	竿	字
(52)	(47)	(42)	(37)	(32)	(27)	(22)	(17)	(12)	(7)	(2)
人	通	重	台	前	種	枝	間	廻	基	腰
(53)	(48)	(43)	(38)	(33)	(28)	(23)	(18)	(13)	(8)	(3)
坊	條	帙	塘	總	處	紙	口	卷	区	衡
(54)	(49)	(44)	(39)	(34)	(29)	(24)	(19)	(14)	(9)	(4)
匹	牒	帳	端	足	渚	周	根	管	軀	蓋
(55)	(50)	(45)	(40)	(35)	(30)	(25)	(20)	(15)	(10)	(5)
鋪	筒	張	地	代	床	章	坐	貫	具	合

(71)	(66)	(61)	(56)
樓 <small>トウ</small>	粒 <small>リツ</small>	纒 <small>マシ</small>	部 <small>ブ</small>
(72)	(77)	(62)	(57)
院 <small>イン</small>	両 <small>リウ</small>	面 <small>メン</small>	副 <small>ソ</small>
(78)	(63)	(58)	
	領 <small>リウ</small>	文 <small>モン</small>	柄 <small>ヘ</small>
(79)	(64)	(59)	
烈 <small>リツ</small>	翼 <small>ヨウ</small>	本 <small>ホン</small>	本 <small>ホン</small>
(70)	(65)	(60)	
連 <small>レン</small>	流 <small>リウ</small>	枚 <small>ヘイ</small>	枚 <small>ヘイ</small>

右の助数詞は、次のような事物を対象として用いられている。助数詞ごとに列挙する。

用例一覽

凡例

- (イ) 冒頭に通し番号を付して当該の助数詞を掲げ（これに参照すべき助数詞を↓印によって示すことがある）、次に、用例一〜三例を示し、その後に、対象となっている事物のすべてを簡潔に列挙していく。末尾の①②③は、その用例のみえる資料番号（前掲）である。
- (ロ) 他資料における場合と比較照合していく便宜を配慮し、助数詞は字音読によって五十音順に配列する。

(ハ) 用例は、原則として所見の一ヶ条を一例として数えるが、それぞれ冒頭に総計が示され、その後に内訳が示されるような場合は、その総計のみを採り、その内訳の部分は採らない。

- (ニ) 同一文書の中に、用例が二〜四例（二〜四ヶ条）あればその資料番号の右に一線を付し、五例（五ヶ条）以上あれば二線を付す。
- (ホ) 前述のごとく、布帛の長さの単位とみられるものは採用しない。

生繩伍伯肆拾伍匹① — 「匹」
 合商布漆佰式拾漆段① — 「段」〔合〕は合計の
 〔意味、以下同様〕
 古文書における助数詞 (二) (三保)

合庸布肆佰伍拾式段壹常① — 「常」

しかし、次の類は、念のために採っておく。

i、「端」も長さの単位とされるが、これは次のようにみえている。

紫紗式端一長十三丈八寸①
 一長六丈三尺五寸①

合仏張柱裏布參端二長各五丈
 一長四丈 並仏物①

右にならぬ次も採っておく。

合長布捌佰捌拾陸端①

合紺布壹拾捌端①

ii、また、次の類は「條」で採った。

合調繩陸佰肆拾參匹半端式拾式條①

合交易繩伍佰捌拾匹端式拾玖條①

合細布式佰漆拾式端式拾式條①

合長布參阡陸佰肆拾玖端伍拾伍條①

合交易布式万壹佰捌拾伍段伍拾玖常參拾肆條①

合雜繩端壹拾壹條①

(ハ) 次の二ヶ条は、保留として採らなかつた。

觀世音菩薩像捌張① (三四五頁下段)

合塔本肆面具壩一具涅槃像土 一具略 ① (同右)

前者は、「合仏像式拾壹具伍驅肆拾張」(①三四四頁下段)の条の末尾に位置するが、その「肆拾張」に余る「捌張」のようであり、果して「合仏像……肆拾張」に包摂されるものかどうか不明である。後者は、「合……肆具……」とでもあればわかりやすいが、このままでは対処しにくい。

(1) 宇(↓其、間、口)

例、薬師金堂一字^①、中門一字^①、

対象 [建造物] 金堂^③、双堂^③、堂^③、細殿^③、食堂^③、六角漆殿^③、六角殿^③、双軒廊^③、屋^③、倉^③(この内訳に、甲倉、板倉屋、板屋、板甲倉、板倉屋あり)、中門^③、協門^③、仏門^③、

(2) 腰

例、袴四腰^①、裳老腰^①、彩色玉壺一腰^③、

対象 [袴] 袴^①、袴^①、(帛袴、綿袴、紺地袴を含む)、袷袴(緋絶袷袴、帛袷袴、緑袷袴)^③、汗袴^③、袴奴^③、尊袴^③、襖^③、禪^③、[裳] 裳^①、
②、[壺] 玉壺^③、

(3) 衡

例、合度量式拾衡^{吳量四衡 福量四衡 倭量四衡 斗四口 升四口}①、

対象 度量^①

(4) 蓋

例、蘇志麻理懸笠二蓋^①、

対象 懸笠^②、

(5) 合

例、合襷管捌拾式合^①、合厨子玖合^③、合香杯参拾漆合^③、

対象 襷管^①、革箱^①、皮管^③、草管^③、櫃鈎納革箱^③、韓櫃^①、
辛櫃^③、倭櫃^①、小櫃^③、櫃^③、納櫃^③、經櫃^③、經辛櫃^③、仏御櫃^③、
厨子^③、合子^③、食器^①、円牒子^③、飯銃^③、塔銃^③、香杯^③、香
鑑^③、(牙口) 脂壺^③、

(6) 竿

例、梓一竿、着鋒鐔^②、

対象 梓^②、

(7) 基(↓口、前、足)

例、八角塔一基^③、中大門一基^③、瓦葺八角仏殿老基^③、拳身光一基^③、

白木榻一基^③、厨子七基^③、

対象 [塔] 塔^①、八角塔^③、[門] 中大門^③、樓門^③、[殿堂] 八角
仏殿^③、金堂^③、[灯台] 火炎^③、拳身光^③、円光^③、[床榻類] 牙床^③、
榻^③、牙床榻^③、象牙榻^③、床^③、吳床^③、台^③、[厨子] 厨子^③、

(8) 区

例、院地壹区^③、

対象 院地^③、

(9) 軀(↓具)

例、合仏像式拾壹具伍軀肆拾張^①、合金剛力士形式軀^①、羅漢画像九十

四軀^③、薬師仏画像二軀^③、

対象 [仏像、仏画像の類] 仏像^①、雜仏像^③、釈伽仏像^③、阿弥陀
仏像^③、菩薩像^③、菩薩^③、菩薩木像^③、菩薩画像^③、菩薩埵像^③、
薬師像^③、薬師仏画像^③、薬師仏并觀世音菩薩画像^③、羅睺羅像^③、四
天王像^③、四王像^③、梵天王像^③、天帝釈像^③、埵帝釈像^③、
埵神王像^③、多門天王像^③、毘沙門天王像^③、埵般沙尸棄像^③、窄度跋
提神像^③、神王像^③、竜王像^③、将了知大將像^③、八臂那羅延天像^③、
金剛力士形^①、羅漢像^③、羅漢画像^③、摩耶夫人像^③、天女像^③、
吉祥天女像^③、大弁才天女像^③、天人像^③、菩提樹神善女天像^③、堅牢
地神善女天像^③、太子像^③、最勝太子像^③、

(10) 具(↓口、軀)

例、合仏像玖具^③、合法分灌頂幡老拾肆具^①、合香爐老拾具^①、吳菜衣

服二具③、吳樂器二具③、鑊子二具③、

対象 「仏像など」 仏像①②、撰四天王像②、即八部像②、銅像②、宮殿像②、「灌頂幡、帳など」 灌頂幡①②、尾幡③、阿弥陀仏宝頂①、高座宝頂①、幢①、蓋③、「器物」 香爐①②③、单香②、花香具①、香水器①、鉈鉈①、飯擧①、糲擧①、箸②、鐙②、籌②、持②、礼盤②、高座①②③、長椅①、櫃座①、「装束」 手衣②、鍔②、扇③、吳樂衣服③、襠褌③、脛褌③、袷③、腰垂③、羅陵王装束③、「樂器」 伎樂①②、吳樂器③、大唐樂器③、高麗樂器③、銅鈸子③、吳鼓③、古樂鼓③、笛袋③、「戸」 鑊子①②、

(11) 褌③ (↓貫、丸、袋)

例、白玉水精青玉琥等玉沓褌②、雜香廿九褌③、

対象 玉(白玉水精青玉琥等)②、縹玉②、雜香③、

(12) 廻③ (↓宇、周)

例、椀皮葺廡廊沓廻②、

対象 廡廊①②、

(13) 卷③ (↓通、部)

例、大般若経沓部①、合典言四卷②、田藺山野図漆拾参卷③、

対象 「仏書經典類」 經典(含、「一切経」「経」「疏」)①②③④、論疏

玄章伝記①②③、「金銅」 文(四王像の所持物の二)③、律①②、「目錄、

他」 目錄③、典言②、書法②、「文書類」 勅書官符等③、田藺山野図③、

(14) 管③ (庄園の図面類)①

例、合笙参管②、筆一管③、

対象 笙②③、横笛③、尺八③、箏篋③、筆③、

(15) 貫③ (↓褌、丸)

例、合誦数式拾玖貫②、玉式貫②、

対象 誦数②、古念数③、玉②、

(16) 丸③ (↓褌、貫、袋)

例、合塔分雜物伍種朱芳帳一張/小方三柄/水精三丸/小赤玉一丸①(印は原本に改

行)、菩提樹数五十三丸②(珠数)、合百和香沓丸③(普通は、斤兩分)、

対象 赤玉①、白玉②、青玉②、紺玉②、縹玉②、水精玉②、金玉②、

銀玉②、菩提樹数(珠数)②、百和香②、

(17) 間③ (↓宇、口)

例、椀皮葺門式間②、瓦葺僧房式間②、

対象 講堂②、僧房②、門②、屋②、

(18) 口③ (↓宇、合、基、具、管、間、人)

例 堂一口①(金堂、食堂、門伍口①、合供養供式拾肆口①、合鍾式口

①、冠廿四口③、宝蓋一口③、経囊十一口①、覆一口③、合賤伍鍾

参拾参口①(家人、奴婢、浄寺奴、玉念曲参口②)、

対象 「建造物」 堂①(金堂、食堂)②、樓①②、僧房①、禅院舎②、

温室①、温室院室②、大衆院屋①(厨、竈屋、政屋、碓屋、稻屋、木屋、

客房②、政所院②、倉①②、庄庄倉①②、屋①②、井屋②、宿直屋②、

門①②、「器物」 供養具①②(鉢、多羅、鏡など)、(犀角) 船①、円船①、

船②(象牙) 尺①、(象牙) 繩解①、田筒①、樽①、井樽②、樽①、火

爐①②、鐵爐②、单香②、香鑪②、其盤②、鉢①②、漿鉢②、鐵鉢②、

多羅①②、小多羅②、器①、鏡②、塔鏡②、大盤②、手洗移②、碟子①、

匙①、匙①、壺②、水瓶①②、花瓶②、釜①②、鍔①、鉄①、飯鏡①②、

鏡①、鉈①、鉈①、酌②、銅斗并升②、鑊①、鑊子①②、胡祿②、木

釵③、〔樂器〕鍾①②、磬①、〔銅〕鈴①③、鈴②、大鈴③、鐸③、鉦盤③、
 ③、笙③、〔斑竹〕竽③、簫③、尺八③、横笛③、頭形②〔師子頭、虎頭、虎頭②、冠③〕冠③、〔蓋〕蓋③、宝蓋③、〔袋、覆など〕經囊①②、囊②、〔種種物〕袋②、袋③④、宝頂懸木綿袋④、帛袋③、錦袋③、辛紅刺物袋③、香袋③、覆③、〔人物〕僧①〔僧、沙弥〕②、賤①〔家人、奴婢、淨寺奴、胡人③、〔分類未詳〕玉谷曲②、
 (19) 根③

(例) 金銅花樹一根③、
 対象 (金銅) 花樹③、

(20) 坐③

(例) 經台坐④、

対象 經台④、

(21) 劑③

(例) 合麝香壹劑③ 又壹筒②、

対象 麝香②、

(22) 枝③

(例) 合錫杖式枝④、仏台二台 黒柿柱四枝③、鉗二枝③、

対象 錫杖①②、古様錫杖④、新様錫杖④、如意②、棗③、杖②、鏡②、

鉗③、罰③、仏懸横木②、黒柿柱③〔仏台の付属物〕、柱③、弓②、

(23) 紙③

(例) 一卷 諸国解文田沽買券 十五紙③、

対象 (諸国解文田沽買券の料紙)③、

(24) 周③〔↓廻〕

(例) 双廊一周③、

対象 双廊③、

(25) 章③

(例) 已上六章③、

対象 (資財帳の章立て)③、

(26) 首③〔↓具、頭、流〕

(例) 合法分小幡壹伯肆拾捌首 緋網肆條④、

対象 小幡④、

(27) 種③ ……へ、内「雑物」として一括される物を示す。

(例) 合法分肆種 經台三足 案机一足 塵尾一枚④、合葉壹拾肆種④、

対象 (諸仏像) (諸仏像)③、〔雑物〕〔雑物〕① へ 經台、安机、經囊、

塵尾④ へ 紫石、五香丸、水精③、へ 金銅棗、金銅文、筆、雑物④ へ 犀

角胎、象牙尺、象牙繩解、小刀④ へ 小刀、銅鈴、赤糸細④ へ 高坐、

絞、幢④ へ 朱芳帳、小刀、水精、小赤玉④ へ 犀角、小刀④ へ 繡

帳、机、食器、その他で計三十一種④ へ 全金玉、鏡台、額、帳、机、

その他で計二十八種④、〔香葉、他〕香④、經副香④、葉④、綵色物④、

(28) 處③〔↓地〕

(例) 合處處肆拾陸處④、合菌地式處②、

対象 處處庄④②、菌地②、

(29) 渚③〔↓塘〕

(例) 合海式渚④、

(30) 床③

(例) 合褥叁拾陸床④、合高麗八部捌床②、合秘錦參床②、

対象 褥④②③、敷褥③、紫褥③、錦褥③、氈④、織絨并氈②、高麗八

部②、秘錦②、

(31) 隻ヒナ

例、合箭肆拾玖隻[㊦]、足六隻[㊦]、

対象 箭[㊦]、足[㊦]（机の足）、

(32) 前ゾコ（↓基、足）

例、足別白木机一前[㊦]、床一前[㊦]、

対象 白木机[㊦]、榻[㊦]、榻机[㊦]、榻足机[㊦]、牙床机[㊦]、高机[㊦]、床[㊦]、

(33) 總ソコ

例、六角漆殿二字（中略）玉幡六流 糸幡四總 下略[㊦]、

対象 糸幡[㊦]、

(34) 足ソコ（↓基、前）

例、案机一足[㊦]、合経台肆足[㊦]、合沓式足[㊦]、

対象 〔机、榻床の類〕案机[㊦]、安几[㊦]、机[㊦]、中取机[㊦]、火爐

机[㊦]、机橋礼盤[㊦]、榻[㊦]、床[㊦]、床子[㊦]、〔経台類〕経台[㊦]、鏡台[㊦]、

厨子[㊦]、脇息[㊦]、〔沓〕沓[㊦]、

(35) 代ダイ

例、都合本記地老伯老拾陸万参仵老伯肆拾代[㊦]、

対象 地[㊦]、

(36) 袋ダイ（↓褌、丸）

例、丁子香老袋[㊦]、

対象 丁子香[㊦]、

(37) 台ダイ

例、仏台一台[㊦]、方響一台[㊦]、

対象 〔仏台〕仏台[㊦]、〔楽器〕方響[㊦]、

(38) 塘ドウ（↓渚）

例、合池陸塘[㊦]、

対象 池[㊦]、

(39) 端タテ（↓條）〔凡例参照〕

例、紫紗式端長十三丈八寸一長六丈三尺五寸[㊦]、合仏張柱裏布參端二長各五丈一長四丈並仏物[㊦]、

対象 長布[㊦]、紫紗[㊦]、紺布[㊦]、仏張柱裏布[㊦]、

(40) 地チ（↓處）

例、山林岳嶋等式拾陸地[㊦]、

対象 山林岳嶋等[㊦]、

(41) 株ヅ

例、幢六株[㊦]、

対象 幢[㊦]、

(42) 重オモ

例、東西各松皮葺樓長二丈板敷二重[㊦]、

対象 板敷[㊦]、

(43) 吠ウ（↓枚）

例、惣大小乗経律論疏章集伝出経録外経等 一千廿三部五千二百八十二卷五百十六吠[㊦]、

対象 〔経律論等を納めたもの〕[㊦]、

(44) 帳チヤウ

例、合繡仏像三帳[㊦]、合宝帳肆帳[㊦]、

対象 〔繡、織絨、畫などによる〕仏像[㊦]、〔同様の〕菩薩像[㊦]、宝帳[㊦]、

(45) 張チヤウ

例、合仏像式拾老具 伍軀 肆拾張[㊦]、合通分繡帳式張[㊦]、笠篋一張[㊦]、

対象 〔仏像〕仏像[㊦]、〔帳類〕繡帳[㊦]、練純帳[㊦]、純帳[㊦]、布単帳[㊦]、

(53) 坊（存疑）

例、合寺院地壹拾伍坊（都城制の一区画四町のそれをいうか）、小幡四流（中略）、紅纈羅身四坊（小幡の裝飾品の一か、未詳）、

対象 〔地〕寺院地（小幡の裝飾品の一か）、紅纈羅身（小幡の裝飾品の一か）、

(54) 匹・疋

例、合馬參匹（駒形二疋）、

対象 〔動物〕馬（伎楽の動物）、駒形（駒形）、

(55) 鋪

例、五副畫像靈山淨土壹鋪（葉師淨土變一鋪）、四天王畫像二鋪（四天王畫像）、

対象 淨土・淨土變（の畫像）、四天王畫像（四天王畫像）、

(56) 部（↓卷、帙）

例、合論疏玄章伝記惣壹拾參部拾壹卷（大般若經壹部六百卷）、

対象 〔經論疏〕（一）、（二）、（三）、（四）、（五）、

(57) 副

例、五副畫像靈山淨土壹鋪（合衣屏肆條二條各卅副表繪、裏繪、二條各七副半）、

納櫃二合（中略）、帛袋一口八副（一）、一卷、鳴下郡穂積村（白紙二副）、庄内印（一）、

対象 〔菩薩等の畫像を構成するもの〕菩薩畫像（一）、一軀（四副）、菩薩畫像（一）、一軀（五副）、また、

二副、四天王畫像（二）、鋪（各五副）、〔衣屏、覆など〕衣屏（一）、二條

各三十副、また、各七副半、垣代帳（一）、一條（十一副）、また、二十三

副、覆（一）、二條（二副）、帛袋（納櫃用）、二口（八副）、〔函面〕寺

院（一）、二卷（白紙二副）、庄（三）、三卷内（一）、白紙二副、村（一）、二卷（白紙二副）、

紙二副、柄（一）、

(58) 柄

古文書における助数詞（一）（三保）

例、小刀八柄（一）、鉞參柄（一）、鉞玖柄（一）、振鼓二柄（並彩色）、

対象 小刀（一）、大刀并横刀（一）、横佩（一）、大刀（一）、木太刀（一）、鈔（一）、

鉞（一）、鉞（一）、〔方響の〕鏈（一）、酌（一）、倒鼓（一）、振鼓（一）、

(59) 本

例、合温室分雜物式種（犀角一本重三斤八兩）、下略（一）、

対象 犀角（一）、

(60) 枚（↓卷、帙、條）

例、坐具玖枚（一）、褥式枚（一）、黒葛編篋拾枚（一）、簾式枚（一）、麁尾一枚（一）、

琴柱十三枚（一）、黄楊撥一枚（一）、合磬參枚（一）、合匙參拾壹枚（一）、一卷

僧網牒檢園墾田地等（在印、并白紙廿二枚、神護景雲元年）、帙六十枚（一）、

対象 〔敷物など〕坐具（一）、褥（一）、〔錦褥、高座褥、礼盤褥、机褥〕

他を含む（一）、編篋（一）、申篋（一）、蓆（一）、長畳（一）、半畳（一）、蒲薦（一）、蓆（一）、

烟紫（一）、茵（一）、高座茵、礼盤茵（一）、〔簾、障子など〕簾（一）、障子（一）、庇

天并蓋（一）、〔花鬘、羽扇など〕麁尾（一）、八部（一）、獸尾（一）、獸（一）、

〔伎楽の楽器、衣装の付属物〕琴柱（一）、〔黄楊、撥〕、〔笠篋の〕裡鐵子

〔方響の〕鐵具（一）、鋪（一）、〔器物類〕金針（一）、銀針（一）、匙（一）、

磬（一）、〔銀、爵〕、冠銅（一）、〔字上周廻〕火炎（一）、〔角隄瓦端

銅、桶端金銅の〕華形（一）、龍舌（一）、蓋（一）、枚金（一）、〔帙〕帙（一）、〔文書

類〕官省符并案（一）、解文（一）、券文（一）、〔猷雜物書の〕用紙（一）、白紙（一）、

* には、卷子に仕立てた文書類につき、その料紙数を「〇〇枚」と

付記した例が多い。以下省略する。

(61) 縷

例、日影二縷（黒赤紫羅地）、

対象 日影（一）、

(注2) 公式令には、公文書には「真書」を用いるべきこと、数字は「大字」(壹、貳、参……)を用いるべきことが規定されている。凡公文。悉作「真書」。凡是簿帳。科罪。計贓。過所。抄勝之類有レ数者。為「大字」。(第六六条)

(注3) 今日の漢語系助数詞をくらべても、中国におけると日本におけるとは多分に様相を異にすることはよく知られている。古代においても大小の差違が指摘できる。また、日本における助数詞に関する方言事象については、室山敏昭「方言の中の数詞・助数詞」(『日本語学』、昭和六十一年八月十日発行)に言及がある。

(注4) 峰岸明「平安時代の助数詞に関する一考察」、『平安時代古記録の国語学的研究』所収、昭和六十一年二月、東京大学出版会刊、五五九頁。

(注5) 大正十八年十一月再版、八木書店刊。上下二冊本。

(注6) 『寧楽遺文』(注5)、竹内理三博士「解説」。

(注7) 個々の助数詞が、いかなる日本語(含、字音語)によって運用されていたかについては別に小考を用意したい。

二 平安時代の寺院縁起資財帳・実録帳

調査対象文書

ここでは、竹内理三編『平安遺文 古文書編』^(注1)の第一巻から第十一巻における古文書の内から寺院縁起資財帳・縁起実録帳を抜出し、資財の列挙条項を主たる調査対象とし、その助数詞を調べることとする。

但し、(い)、この中には正倉院御物出納注文関係書類が含まれているが、これは別途に考察したい。^(注2)また、(ろ)、寺院以外の実録帳は除く(例、上野国交替実録帳、長元三年、文書番号四六〇九、第九巻所収、など)。(は)、寺社の寺用帳、検損色帳、施入状、諸国封物采納帳等は除く。

右により、調査対象となり得る文書(資料)は次のとおりであるが、この内、②は文書の構成上、用例が得にくく、⑬は「本書検討を要す」と注記されているので、これらを除いた合計十六点が調査の対象となる。

○ 寺院縁起資財帳・実録帳

1、資料番号は私に付したものである。

2、文書名、日付、文書番号、巻数は『平安遺文 古文書編』のそれである。

番号	資料	文書名	日付(西暦)	文書番号	巻数
①	多度神宮寺伽藍縁起資財帳	延暦20(80)・11・3	三〇	1	
②	河内国観心寺縁起実録帳案	承和4(87)・3・3	六	1	
③	宇治院資財帳案	貞観3(86)・11・17	一三	1	
④	安祥寺伽藍縁起資財帳	貞観9(87)・6・11	一六	1	
⑤	山城国広隆寺資財帳	(貞観15(87))	一六	1	
⑥	河内国観心寺縁起資財帳	元慶7(88)・9・15	一七	1	
⑦	山城国広隆寺資財交替実録帳	(仁和3(86))	一七	1	
⑧	筑前国観世音寺資財帳	延喜5(95)・10・1	一四	1	
⑨	某寺資財帳案		四五九	9	
⑩	神護寺実録帳写	承平元(93)・11・27	三三	1	
⑪	信貴山寺資財物帳写	承平7(93)・6・17	四〇四	10	
⑫	伊勢国近長谷寺資財帳	天曆7(95)・2・11	二五	1	
⑬	某寺資財帳	天元3(98)・2・2	三五	2	
⑭	筑前国観世音寺資財帳案	(嘉保元(109))	一六	4	
⑮	山城国長福寺縁起并資財帳	治承元(117)・12・□	三七	8	
⑯	河内龍泉寺資財帳写	承和11(88)・11・26	二八	11	
⑰	河内龍泉寺流記資財帳写	承和11(88)・12・8	二九	11	
⑱	撰津惣持寺資財帳写	承平5(93)・2・9	二六	11	
⑲	撰津勝尾寺資財帳	元暦元(94)・2・□	四〇	11	

これらの資料において、既述の助数詞B群に属するものは左記のごとくである(便宜上、字音を傍記し、これを五十音順に配列する)。

- (1) 宇^ウ行^{コウ}多^タ行^{コウ} ①
- (2) 腰^ウ合^カ具^ク卷^{クワン}月^{ツキ} ②
- (3) 葉^{エフ}基^キ果^{クワ}貫^{クワン}口^ク ③
- (4) 烟^{エン}脚^{キョウ}顆^カ丸^{マル}勾^{コウ}紙^シ ④
- (5) 蓋^{ガイ}筋^{キン}廻^{クワン}茎^{ケイ}双^{ソウ}床^{シヤウ}舌^{ゼツ}道^{ダウ}張^{チヤウ}帖^{テツ} ⑤
- (6) 丈^{チヤウ}柱^{チユウ}前^{ゼン}處^{ヂョ} ⑥
- (7) 腰^ウ合^カ具^ク卷^{クワン}月^{ツキ} ⑦
- (8) 葉^{エフ}基^キ果^{クワ}貫^{クワン}口^ク ⑧
- (9) 烟^{エン}脚^{キョウ}顆^カ丸^{マル}勾^{コウ}紙^シ ⑨
- (10) 烟^{エン}脚^{キョウ}顆^カ丸^{マル}勾^{コウ}紙^シ ⑩
- (11) 葉^{エフ}基^キ果^{クワ}貫^{クワン}口^ク ⑪
- (12) 腰^ウ合^カ具^ク卷^{クワン}月^{ツキ} ⑫
- (13) 葉^{エフ}基^キ果^{クワ}貫^{クワン}口^ク ⑬
- (14) 丈^{チヤウ}柱^{チユウ}前^{ゼン}處^{ヂョ} ⑭
- (15) 腰^ウ合^カ具^ク卷^{クワン}月^{ツキ} ⑮
- (16) 葉^{エフ}基^キ果^{クワ}貫^{クワン}口^ク ⑯
- (17) 腰^ウ合^カ具^ク卷^{クワン}月^{ツキ} ⑰
- (18) 葉^{エフ}基^キ果^{クワ}貫^{クワン}口^ク ⑱
- (19) 葉^{エフ}基^キ果^{クワ}貫^{クワン}口^ク ⑲

右の助数詞は、次のような事物を対象として用いられている。助数詞ごとに列挙する。

凡例 一覽

(イ) 冒頭に通し番号を付して当該の助数詞を掲げ(これに参照すべき助

数詞を示すことがある、↓印)、次に、用例として二〜三例を例示し、その後に対象となつてゐる事物のすべてを簡潔に列挙していく。末尾の①②……はその用例のみえる資料番号である。

(ロ) 他資料における助数詞との比較照合の便宜を考慮し、助数詞は字音読によつて五十音順に配列する。

(ハ) 用例は、原則として一ヶ条を一例として数える。一ヶ条は「事物十数詞十助数詞十(注記、他)」という形式をとることが多い。

例 紫繪巻領⑧ ↓ 領 (紫) 繪⑧

例 戸肆具東西各一具⑧ ↓ 具 戸⑧

前者の場合、助数詞「領」につき、「紫」繪」を対象とするもの一例ありと数える。後者の場合、助数詞「具」は「戸」を対象として三例みえているが、この一ヶ条全体で一例と数え、その注記(内訳部)における用例は数えない。

但し、一ヶ条中に、あるいは、注記(内訳部)の中に異種の助数詞がみえる場合は、これを別途に採用し、数え上げることとする。

例 灌頂参具納辛櫃一合⑦

↓ 具 灌頂⑦
合 辛櫃⑦

(ニ) 同一文書の中に、用例が二〜四例(二〜四ヶ条)あれば資料番号の右に―線を付し、五例(五ヶ条)以上あれば〓線を付す。

(1) 字(↓基、間)

例、椀皮葺伍間金堂卷字⑥、

対象 [建造物法堂等] 法堂①、堂③⑤⑦⑧、妙見堂③、講法畫堂⑤、

古文書における助数詞(二) (三保)

講堂⑧⑨、金堂⑥⑧⑭、礼堂⑧⑩⑬、礼殿⑩、根本堂⑩、根本真言堂⑩、五仏堂⑩、五大堂⑩、護摩堂⑩、法華三昧堂⑩、廟殿⑩、古廟殿⑩、御在殿⑩、齋殿⑩、納涼殿⑩、方丈円堂⑪、御堂⑬、北堂⑬、常行堂⑬、

本堂⑬、鎮守宝殿⑬、拜殿⑬、如法堂⑬、阿弥陀堂⑬、私持仏堂⑬、(同僧房等)鐘台①、鐘樓⑫⑬、鐘樓⑧、鐘堂⑩、方鐘⑬、中門③⑧⑩、大門③⑧、廊⑩、步廊⑬、僧房(坊)③⑤⑦⑩⑫⑬⑭、客房⑤⑦⑩、客僧房⑧、大房⑧、小子房⑧、房舍⑬、大衆三間屋⑪、大衆屋⑫、(同食堂等)

大炊屋③⑤⑩⑭、炊屋⑦、食堂⑤⑦⑩⑭、政所庁屋⑤⑦、政所屋⑩⑫⑭、厨屋⑤⑦、厨⑧、湯屋⑤⑦⑩⑭、水屋⑧、備屋⑧、碓屋⑧、造瓦屋⑧、竈屋⑧、厠屋⑧⑩、板敷屋③、板敷椀皮葺③、椀皮葺五間⑭、〇〇屋⑤⑦⑧⑪⑫⑭、門屋⑤⑦⑧、間⑧、番屋⑩、瓦葺⑧、馬道屋⑧、(同倉等)甲倉③、校倉③、宝蔵⑤⑥⑦⑭、(宝蔵の南北二倉)⑤⑦、長倉⑤⑦、倉⑤⑥⑦⑪、甲小居倉⑤⑦、少(小)倉⑤⑦、経蔵⑧、板倉⑧⑭、龜甲倉⑧、甲双子倉⑩、収屋⑩、納屋⑩、三経蔵⑭、一切経蔵⑭、

(2) 腰マタ

例、布禪卷腰⑤、鼓桐卷腰、

対象 [袴]〇〇袴⑤⑦⑧⑭、[禪]〇〇禪⑤、[裳]〇〇裳⑤⑧、[枚帯・

肺巾等]⑤⑧、[楽器]鼓桐⑥、[不明]⑧、

(3) 葉ハ

例、蓮花形灯台拾卷基基五葉⑦、

対象 [蓮花]⑦、

(4) 烟タバコ

例、封戸式佰烟⑧、

対象 [封戸]封戸⑧、

(5) 蓋ガイ

例、大唐笠子一蓋④、玉冠蓋④、

対象 「笠子・笠」笠子④、垂緒笠⑤、「玉冠」玉冠④、

(6) 行ウツギキヤ

例、已上十二行④、

対象 「列挙された条項の数行を一括する用法」④、

(7) 合ガフ

例、金泥銅火爐壺合①、

対象 「器物」火爐①④、火呂④、鏤香呂④、薰呂④、香爐④、酒坑⑧、

(犀角) 坏⑧、鏤(白銅)坏⑧、香鉢①、香坏⑧、香盞④、香水坑④、

多羅④、水瓶⑧、花盤④、盤④、壺④⑧、堤壺④、香水：壺⑧、鏤：香

器⑧、行香壺④、輓轆碗①、「白銅」鏡⑧、銅輪④、合子①④④④、箱子④、

白蓋④、搗盃④、宝子④、革筥④⑤⑦、花箱④、香呂箱④、奩④、大箱

④、木筥⑦、柳筥④、倉代⑤⑥⑦、持櫃①、辛櫃③⑦⑪、韓櫃⑤⑥⑦⑧、

小櫃⑤⑥⑦、粉飯櫃⑧、櫃⑧、椅子④、「楽器」(春鶯囀頭の類)④、

(8) 基キ(↓字、脚、前、足)

例、塔式基並三重①、

対象 「塔など」塔①⑪、仏舍利塔④、石塔④、五輪率都婆④、参重塔

⑤、三重塔⑦⑪、五重塔⑧、宝塔⑩、小塔⑩、「門など」中門⑤⑦、南門

⑤⑦、鐘樓⑤⑦、鐘樓⑬、南大門⑤⑦、東大門⑤⑦、西大門⑤⑦、門屋

⑤、「灯台など」灯械④、灯擎子④、灯台⑦、灯樓⑧、高坏⑤⑦、「床な

ど」高座⑤⑫、安机④、唐椅子⑥、经台④⑤⑦、礼盤床⑤、礼版床⑦、

長床⑤⑦、「厨子」厨子③④⑤⑦⑭、小厨子④、「幢、帳など」宝幢④、

幢⑥、椅帳④、仏御斗帳⑤⑦、「楽器」金鼓⑧、

(9) 脚キヤク(↓基、前、足)

例、同(金銅)花盤四十九脚④、黄揚子繩床一脚④、

対象 「器物」花盤④、火爐④、鐵竈④、礼盤⑧、「床、机など」繩床④、

長床⑧、刺床⑧、吳床⑭、桝机⑤⑦、机⑧、

(10) 筋キン

例、白蓋拾肆條在綱九筋⑦、石帶八筋⑬、

対象 綱⑦、石帶⑬、

(11) 軀ク(↓副、躰)

例、金泥弥勒菩薩像志軀①、空海大僧正阿闍梨像志軀④、

対象 「仏像」①④⑤⑥⑦⑧⑩⑪、「太子像、三藏像など」太子像①、三

藏像④、阿闍梨像④、

(12) 具ク(↓口、副)

例、高座宝頂式具各小幡四具①、硯瓦一具銀瓶子一口、同提盃合④、

対象 「灌頂幡、帳など」高座①④⑧、高座宝頂①、宝頂骨①、宝頂⑫、

灌頂幡①、灌頂⑥⑦、蓋④、横蓋⑧、大花王座④、蓋架⑧、純幕④、同

①、帳合帷⑤、同帳(仏御斗帳)合帷⑦、幢(幢カ)⑤、幢⑦、綱⑫、「器物」

風爐③、香爐④⑤⑥⑦⑧⑪、香呂④、行香調度⑤⑦⑬、護摩杓④、護摩

具⑬、印子并摸④、硯瓦④、「金銅」筋⑤⑦、鏤子⑤⑦⑩、「鐵」錯⑧、

(白銅、鐵などの)錯⑧⑭、鈴杵⑬、鈴杵⑬、灑水器⑬、鏡鉢⑬、小

磨碓④、辛碓⑤、粉熟機⑧、油臼⑪、鏡⑧、缸⑧、胡祿⑧、脚巾⑧、瓦

形⑧、「装束」舞菩薩装束④、陪侶装束④、師子⑤⑦、師子兒装束⑦、緋

臂衣⑦、「治道装束、他」⑦、緋辟衣⑤、黄辟衣⑤、環(吳樂用)⑤、天

衣⑤、脚裳⑤、枚帶⑤、頸金⑤、法服⑬、鈍色装束⑬、七條袈裟⑬、童

舞装束⑬、天冠菩薩カタタ⑬、「楽器」方磬④、鉸子④⑧⑭、鏡子④、獸放

飛④、獸放飛子④、杖樂④、新伎樂⑧、中樂⑧、菩薩舞頭⑥、〔戸〕⑤⑥
 ⑦⑧⑩⑬、部戸⑤⑦、板戸⑦、脇戸⑤⑦、大戸⑤⑦、小戸⑤⑦、行戸⑦、
 〔その他〕銅涅槃塔様⑥、仏御跡⑧、鳥居⑩、五大尊像⑬、□寺院⑬、

(13) 果ミカ

例、水精珠一果④、慈石二果大一斤四兩④、

対象 水精珠④、慈石④、垂聚⑧、

(14) 顆カク

例、頗胝迦宝三顆④、瑟琶一顆重六斤九兩④、

対象 頗胝迦宝④、瑟琶④、

(15) 廻クワイ (↓字、間)

例、檢皮葺歩廊廻五十間高八尺広一丈五尺⑤、内陣鳥居釘貫一廻⑩、

対象 歩廊⑤⑦、内陣鳥居釘貫⑩、

(16) 管クワン

例、笛衣管⑧、胡笙一管⑩、

対象 笛衣⑧、胡笙⑩、

(17) 卷クワン・月 (↓部)

例、大船若経巻部六百巻①、右四枚為一卷④、承和年中公文拾巻⑦、

対象 〔仏書經典類、注釈書類、イ〕、「一部六巻」のように「部」と共に
 みえるもの〕①④⑥⑧⑩⑬、〔同、ロ〕、「部」と共にみえないもの〕①④

⑤⑥⑦⑧⑩、〔図像など〕八大命王像④、戒壇図⑥、畫図⑦、文図⑦、〔券
 文、公文など〕④⑦、〔資財帳など〕資財帳⑦⑩、縁起帳⑩、実録帳⑩、

(18) 貫クワン (↓丸、連)

例、金剛子数珠一貫④、

対象 数珠①④、誦珠⑧⑭、百子⑧、

(19) 丸クワン (↓貫)

例、水精玉漆丸①、

対象 水精玉①⑧、水精①⑧⑭、迦梨勒①、无食子①、鮑玉⑧、玉⑧⑭、
 蛇玉⑭、瑠璃⑧、琥珀⑧、白玉⑫、宝頂瓶⑫、赤(赤玉をいう)⑭、青
 (青玉をいう)⑭、(玉の大中小をいう)①⑭、

(20) 莖クワン

例、錫杖肆莖⑩、

対象 錫杖⑩、

(21) 間クワン (↓字、廻、面、屋)

例、東房二間一檢皮葺一板葺各長一丈二面有庇④、一三間檢皮葺如法堂吉間⑥、

(22) 懸クワン

例、細色花蔓代參拾陸懸六廿四⑤、

対象 〔花蔓など〕花蔓代⑤⑦、糸花蔓⑤、糸花蔓⑦、〔器物など〕燈⑭、

鞍燈⑭、半舌燈⑭、白蓋⑭、灯呂⑭、玉幡蓋⑭、

(23) 口クワン (↓合、帖、人)

例、銅火爐吉口口径七寸三分①、頭巾式口⑧、

対象 〔器物〕火爐①⑤⑥⑦⑧、大爐③、香爐⑭、湯釜①⑤⑥⑦、盤①

⑧⑭⑱、釜①④⑥⑧⑩⑬⑱、粥釜⑤⑦、足釜⑤⑥⑦、小釜⑤⑦、旅釜⑥、
 槽⑥、塙①、芝鍋③、足鍋⑩、釜鍋⑩、(菜分)鍋⑩、手鍋⑩、火舎⑩、
 甌①⑤⑥⑦、菜甌⑤⑦、甌⑤⑥⑦、缶⑤、横缶⑥、大甕③、甕④⑧、丸

筒①、油正①、正⑦、羹坑④、注坑④、直拔坑④、直花盤④、注鏡④、
 蓋④、多羅④⑥⑧、鏡④⑧⑭、平鏡⑭、丸鏡⑭、皿①、小沙羅④、沙羅
 ④、盃盃④、闕伽蓋④、闕伽盤④、闕伽器⑭、塗香盤④、鉢②④⑥⑭⑱

⑬ 花盤④、角瓶③、花瓶④⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 薰鉢④、沙甘子④、水瓶⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 鉢⑧、瓷瓶④、茶坑④、白瓷盤④、白瓷湯碗⑥、白碗⑧、仏御鉢⑤⑥、
 飯錠⑤⑥⑧、塔鏡⑤⑥、(白銅)鏡⑭、鏢瓶⑤、居(白銅)坏⑤⑦⑧、鏤(白
 銅)金子⑧、鑊子⑧、(白銅)壺⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 ⑭ (白銅)錘持⑧、犀角坏⑭、酒杯⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 ⑮ 湯船③⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 ⑯ 湯槽③⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 ⑰ 白④⑥、熟銅懸④、辛碓⑦、(粉熟機具の)斗・升・白・碓⑧、鐸⑧、鉦
 ⑧、車爪⑭、鞍骨⑭、仏供火羅⑫、供養船⑪、仏器⑪、小厨子⑪、厨子
 ⑪、如意⑭、金剛杵④、金剛鈴④、率都婆鈴④、螺子④、金剛輪④、金
 剛簞④、金剛檄④、金剛指環④、灌子④、慎火鐸④、提壺④、唐提⑯、
 鈍羅⑯、朱漆器④、五色螺④、堂鉢③、奩④、花匣⑫、盞子④、小盞子
 ④、虎頭⑭、銅輪鏝⑧、硯瓦④、小刀①、剃刀④、剪刀④、珠冠①、王
 冠⑧、(楽器)三鼓⑤⑦、四鼓⑤⑦、楳推鼓⑤⑦、大鼓⑧、金鼓⑤⑦⑫、
 鐘①④⑤⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 銅(小盤)⑥、大鈴④、(金泥)鈴⑦、鈴⑦⑧⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿、
 笙④、笛④、(袋など)頭巾⑧、袋①⑧、黄袋⑤、経囊⑧、(僧侶)請僧
 ⑮、供僧⑮、僧⑮、
 ⑳ 勾フック

例、花縵玖勾①、白銅錫杖式隻、老隻輪陸勾……⑧、

対象 花縵①、鉢①、鉦⑧、(錫杖の)輪⑧、曲戸⑧、瓦衣輪鐵⑧、

(25) 双フタ(↓面)

例、琵琶一双④、

対象 (白銅)筋④、箏④、琵琶④、鉗⑥、仏跡⑭、

(26) 艘フネ

例、船二艘一載廿斛、在大津
一載十五斛、在岡屋津④、

対象 船④、

(27) 支タテ(↓枝)

例、金剛酌杓二支④、

対象 酌杓④、麁尾④、鶏樓子④、(狛犬)尾④、唧唻杖子④、麁尾拂子

④、養和槌④、錫杖④、白檀香④、

(28) 枝エダ(↓支)

例、白銅錫杖式枝各裝在①、

対象 錫杖①、木香爐①、唧唻杖子④、杖⑤⑦、杵⑥、風杵(杵トモ)⑧(五

重塔の付属物)、(僧客房の)柱⑧、(観音像の左右の)火炎⑧、椎⑧、木

端⑧(屋根の一部)、如意⑪、金剛鈴⑫、宝頂張木⑫、仏蓋骨⑭、

(29) 紙シ・帛

例、請空閑地五町牒一帛④、

対象 牒④、国符④、

(30) 床シヤ(↓副)

例、秘錦帋床長六尺三寸、副①、

対象 秘錦①、聖像御座両面①、氈⑧、

(31) 處シヨ・処シヨ(↓底)

例、田代并山一處①、池一處⑤、

対象 田代并山①、池⑤、庄⑥⑧、山⑧、林⑧、

(32) 所シヨ

例、田代野式所①、連子八所⑤、

対象 田代野①、床代④、連子⑤⑦、

- (33) 隻セキ (↓双、枝)
 例、籌捌拾隻①、針舌隻⑧、
 対象 簪①、湯船①、大鎚①、鐵槌⑭、勾鐵⑭、金装釧⑧、針⑧、障久
 伍俵鐵⑧、車館⑧、漸鏝⑧⑭、鐵鑿⑭、杖鐵尻⑭、鐵箸⑭、(胡篋の中の)
 箭⑧、錫杖⑧、如意⑧、箏琴①、箏⑭、履⑧、寺木印①、
 (34) 切キ (↓條)
 例、紗廿四切⑥、
 対象 紗⑥、
 (35) 舌セツ
 例、各著鈴一舌④、
 対象 鈴④ (灌頂の莊嚴付屬物)、
 (36) 前ゼ (↓基、脚、足)
 例、高座机式前①、御座床二前⑩、
 対象 (机、床など) 高座机①、花机①⑤⑦⑪、經机①、机③、中取③、
 前机⑤⑦⑩、居机⑤⑦、小机⑧、大机⑫、椅①、(漆泥)床④、茶床子④、
 脇息①、御座床⑩、(關伽器) 關伽器⑬、
 (37) 足ソク (↓基、兩)
 例、麻鞋式足⑤、高机四足料⑦、
 対象 (鞋、襪など) 麻鞋⑤⑦、斂鞋⑤、鴈鼻鞋⑤、布襪⑤、布合襪⑤、
 鴈鼻沓⑤、靴⑤⑦、紫染④、鋪⑤、(床、机) (礼版床) ⑦、(高机) ⑦、
 (机、火爐などの足) (花机の足) ⑦、(火爐の足か) ⑦、
 (38) 对タイソウ
 例、双天像一对④、
 対象 双天像④、
- (39) 躰タイ (↓軀)
 例、聖僧耆躰⑦、金色十二面觀音耆躰⑫、
 対象 (聖僧) ⑦⑧ (存疑)、(觀音、阿弥陀仏などの仏像、他) ⑫⑬⑭⑮
 ⑲ 摺写阿弥陀仏⑮、舞菩薩⑭、外陣飛天⑭、
 (40) 道ミチ
 例、橋一道⑩、
 対象 橋⑩、
 (41) 柱マサ
 例、毗頭盧一柱⑫、
 対象 毗頭盧⑫、
 (42) 重オモ
 例、石畳塔前九重……⑩、(白鏡) 耆帖六重⑧、御帳三重⑲、
 対象 (塔) ①、石畳⑩、(白鏡) ⑧、御帳⑱、
 (43) 帙マタ
 例、(經卷) 已上五卷為一帙⑥、
 対象 (經卷) ⑥、
 (44) 帳マタ (↓副)
 例、四副阿弥陀淨土耆帳⑦、
 対象 (畫像など) (畫像) ⑦、仏蓋⑭、(琴) 琴⑭、
 (45) 張チヤウ (↓枚)
 例、白壇八角淨土耆張⑭、梓弓耆張⑧、
 対象 (畫像) (畫像) ⑭、(茵、帳など) 長茵①、錦帳⑱、(弓) 梓弓⑧
 ⑭、
 (46) 丈チヤウ (↓條)

例、蛇舌伍拾式丈⑤、

対象 蛇舌⑤⑦、

(47) 通

例、資財帳四通①、太政官牒一通④、

対象 資財帳①、太政官牒④、僧綱牒④、国判券文④(その他券文)④、

(48) 底(↓處)

例、池五底⑥、

対象 池⑥、

(49) 條・条(↓丈、副、旒)

例、押纈帶肆條①、蛇舌老條⑤、

対象 (衣装関係、その他) 帯①④⑤⑦、枚帯⑤、腹帯⑤⑦、腰帯⑧、

緋繪④、總組④、緋綱④、糸綱④、綱④、繡額④、總條④、繩⑤、庇緒

⑤、鼓緒⑤、組緒⑧、毯④、盤敷④、土敷⑤⑦⑭、白蓋⑤⑦、横蓋⑭、

黄蓋⑭、仏蓋⑭、繡蓋⑭、衲袈裟④⑭、甲袈裟④⑪、袈裟⑧⑪、腰裳⑭、

絹⑧⑭、帳①④、柱纏⑤⑦、幔④、大幕④、薰帳④、布垣④、花覆⑤⑦、

覆⑥⑪⑭、褥⑤⑦⑭、礼巾⑤、沙⑧、綾細⑧、帷⑭、打敷⑭、单帳⑭、

笛囊⑤、洗物⑤、高座幡⑪、(幡) ⑫、

* 右の他、伎楽の衣装関係の用例が⑧に一五四例余みえる。

(50) 帖(↓口)

例、屏風一十三帖④、白鏡壹拾式口 為二帖⑧、

対象 屏風④、大幕⑭(幕二張を一帖)、大盤⑪、(白鏡) ⑧⑭(五〇十

口を重ねて一帖)、

(51) 置

対象 (白銅) 七盛打鏡④、同(白銅) 五盛埜④、

(52) 筒(↓面)

例、大鼓壹筒⑫、

対象 太鼓⑫、楮 鼓⑫、干 鼓⑫、

(53) 頭(↓面)

例、高麗犬壹頭①、吳樂面形式拾壹頭⑦(個々の面にも「頭」)、師子⑧、

冠⑧、

対象 吳樂面形⑤⑦、高麗犬①、高麗帽子①、師子⑧、冠⑧、

(54) 人(↓口)

例、僧三口并預一人⑮、

対象 預⑮、住僧⑯、老僧⑯、

(55) 疋

例、木綿子一疋^{長四丈}④、綵白絹式疋 壹疋 緑綾長五丈九尺⑧、

対象 木綿子④、綵白絹⑧、

(56) 鋪(↓幅、副)

例、毗沙門天王像壹鋪④、両部大曼荼羅式鋪^{各六幅}④、

対象 (仏像・和尚像の畫) ④⑥⑧⑩⑱、曼荼羅④⑥⑩⑱、両部壇図④、

(57) 部(↓卷)

例、大般若經壹部^{六百卷}①、法華經參部⑤、

対象 (仏書經典類、注釈書類、(一)「老部^{六百卷}」のように「卷」と共に
みえるもの) ①④⑥⑧⑩⑱、「同、(口)「卷」と共にみえないもの) ⑤⑥
⑦⑧⑪⑬⑮⑱、

(58) 幅(↓鋪)

例、青絹纈式幅⑭、

対象 纈⑭、

(59) 副_フ幅 (↓軀、具、床、條、鋪、領)

例、畫像阿弥陀淨土_{三副}①、合甲纈前垂_{各五副四尺}⑦、

対象 (仏・淨土の) 畫像①⑥、曼荼羅④⑥⑩、(仏御斗帳) 合帷⑤⑦、
帳①、甲纈前垂⑤⑦、秘綿①、花覆_{経覆}①、聖僧御座両面①、土敷⑦、
大幕④、

*付記「三幅両界曼荼羅」⑱一例、

(60) 仏_{ブツ}

例、已上六仏純銀④、阿弥陀五仏⑱、

対象 「諸仏」④⑩⑪⑬、

(61) 柄_ヱ (↓口、隻、枚)

例、金泥大刀舌柄①、白銅小匙八柄_{行香料}④、

対象 如意①④、(灌頂の)金莊竿④、幡懸鉾⑧、錫杖⑭、匙④、小匙④、
杓④⑧、杓子④、香匕④、香匙⑧、香風⑧、香爐⑧、秤④、權衡⑭、辛
鎰⑤⑦、唐鎰⑥、檜皮針⑧、築障鉾⑧、儼錐⑧、築鑿⑧、大刀①⑤⑦⑧
⑭、横刀⑭、小刀⑭、同上 (白銅カ) ⑭ (存疑、

(62) 棒_{ホウ}

例、宝蓋二棒⑥、

対象 宝蓋⑥、

(64) 品_{ホム}

例、法華經一品⑮、

対象 法華_花經 (二十八品) ⑮、

(64) 本_ホ (↓口、茎、支、枝、柄、枚)

例、高坏甘本⑪、錫鉢參本之中<sub>式本長五尺一寸
式本長四尺</sub>⑫

古文書における助数詞 (一) (三保)

対象 高坏⑪、錫鉢⑫、錫杖⑱、大錫杖⑱、如意⑫、文挿⑫、打花⑱、

(65) 枚_{ハシ} (↓具、卷、懸、口、張、條)

例、聖僧御座短茵老枚①、下宇治郡符案一枚④、

対象 「敷物など」長茵①、短茵①、茵⑤⑦、長席①、繩席①、床子③、
畳③、半畳③④、白氈④、高机褥⑥、花足机褥⑥、脇息⑥、「敷板、蓆な
ど」敷歩板⑤⑦、敷板⑦、懸蓆⑤⑦、犬防⑦、屏風⑥、「屋根の」角枚木
⑧、金塗⑧ (存疑)、[花鬘、羽扇など]花鬘代④、花鬘⑱、猊麿⑤⑦、羽
扇⑤、狛尾⑥、腹帯⑤、禱⑧、冠⑧、批⑧、「器物など」如意⑤⑦、籌⑤
⑦、磬①⑤⑦、方磬調度⑭、磬鍾⑥、骨笏①⑤⑦、牙笏⑧⑭、百子⑥、
金剛檜①、香ノ④、ノ⑤⑥⑭、鉈⑦、行香匙⑥、「灌頂の」金銀莊鎮④、
鐵鎮⑤⑦、「鏡の」蓋⑭、(白銅)盤⑭、鐵盤⑭、金剛盤⑱、玉鐲⑧、鉢
輪⑥、鏡形⑦、漆器⑥、漆塗蓋架⑧、鏝⑧、「白蓋一合中の」骨④、鋪、枚
帶の付属品⑤⑧、頸金⑤、平金⑧、鐵耳金⑩、 鉾⑧、「(白銅)上漆
柄⑭、経帙⑭、花箱⑱、「文書、畫像など」(官符案、牒、公驗など)④
⑩⑫、仏跡⑭、御正躰⑱、

(66) 面_{オモ} (↓字、間、双、筒、頭)

例、唐鏡老面①、羅陵老面⑧、一字在庇二面⑪、

対象 「鏡など」鏡①⑧⑫⑭、花鏡④⑧、鏡子④、螺子④、龍頭⑭、油
杯⑭、「(樂器)大鼓①⑥⑪、小鼓①、金鼓①⑧⑪、腰鼓④⑧、鷄樓④⑧、
楮_楮鼓④⑥⑪、羯_羯鼓④⑥⑧⑪、一鼓④、二鼓④⑥、三鼓④⑥⑪、
四鼓④、鉦④、磬⑧、箏⑧、弓琴⑧、琵琶⑭、篋篋⑭、「伎楽の面」④⑧
⑭、「(床、机など)繩床④、床⑧、松床⑧、粉床⑧、前机⑧、高机⑧、鐵
整④、柏木刺⑧、厨子⑧、「庇、戸など」庇⑤⑥⑦⑩⑪⑫⑬、懸半蓆⑦、
戸⑪、築垣⑧、 (廻廊カ) ⑧、「(印)寺家_{印字脱カ}④、銅印⑤⑥⑦⑧⑫

⑭

(67) 旒・流リウ(↓具、條)例、小幡カサ拾肆各長一丈旒之中白色一旒①、五層円灌頂二流④、

対象 小幡①、幡⑥⑦、

*右においては「旒」の字体を用いる、

幡④⑤⑧⑪⑫⑬⑭⑰、玉瓔珞⑱、灌頂④⑤⑭、

*右においては「流」の字体を用いる、

(68) 粒リツ

例、仏舍利九十五粒④、

対象 仏舍利④、

(69) 両リョウ(↓足)

例、布襪老両⑧、靴玖両⑧、

対象 布襪⑧、白襪⑧、開頭履⑧、鞋⑧、鞍鞋⑧、靴⑧、布襪⑧、

(70) 領リョウ(↓條、副)例、白紗花履式領各長九尺①、衣捌領之中紺調服①、紵衫式領⑤、

対象 花履①、経覆①、衣①⑭、半臂①、紗衣⑤、紗袍衣⑦、甲纈袍⑧、

纈袍⑧、白紗袍⑧、古袍⑧、(紫)袍⑧、合袍⑤、単袍⑤、衫衫⑤⑦⑧、

襖子⑤、甲瑠⑤、繡襠⑧、裯襠⑧、礼服⑤、単服⑤、単衣⑦、(紫)纈⑧、

錦纈⑧、纈纈⑧、袂纈⑧、緇纈⑧、羅衣⑧、(紫)緇⑧、大纈⑧、纈紗⑧、

掲子⑧、純端裏疊⑧、純被⑧、袂襖⑧、袂襖⑧、繡襖⑧、襖⑧、純襖⑧、

袂⑧、布襪⑧、笛衣⑧、装束⑭、不明⑧、(71) 了リョウ

例、五色線二了⑥、

対象 (五色)線⑥、

(72) 料リョウ

例、一丈六條八葉蓮華刑綾幡八料⑪、

対象 幡⑪、

(73) 連レン

例、漬墨一連④、水精念珠一連⑱、

対象 (硯瓦一具中の)漬墨④、念珠⑱、

(74) 院イン(↓宇、間)

例、寺老院⑥、堂老院⑫、

対象 寺⑥⑫、堂⑫

(75) 屋イ(↓宇、間)

例 (草葺屋)東二屋⑧、(同)北一屋⑧、

対象 (草葺家屋)⑧、

(注1) 新訂版による。東京堂出版刊。

(注2) 『大日本古文書 二十五(補遺二)』の「附録」として、「正

倉院御物出納文書」(奈良時代末から中世にいたる文書)が収められ、ここに今の関係文書も収められている。この出納文書群については、別途に一括して検討したい。